

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会(事務局: 全国私立学校教職員組合連合)
No.6 2023年7月13日(木)

7・7「学費の公私間格差・自治体間格差是正を考える院内集会」その2 ご挨拶くださった国会議員のみなさん



木村次郎議員 紙智子議員 倉林明子議員 伊藤岳議員 古川元久議員 高木真理議員 福島みずほ議員 仁比聡平議員 牧義夫議員



船後靖彦議員 吉良よし子議員 宮本岳志議員 舟山康江議員 本村伸子議員 田中和徳議員 高橋千鶴子議員 小宮山泰子議員

2023.7.7 学費の公私間格差・自治体間格差是正を求める院内集会 参加議員一覧

本人出席議員のみなさん				代理出席議員のみなさん				
お名前	選出	院	会	No	お名前	選出	院	会
木村次郎議員	青森	衆	自	1	工藤彰三議員	愛知	衆	自
紙智子議員	比例	参	共	2	坂本哲志議員	熊本	衆	自
☆ 山本左近議員	比例東海	衆	自	3	西村智奈美議員	新潟	衆	立
倉林明子議員	京都	参	共	4	吉田統彦議員	比例東海	衆	立
伊藤岳議員	埼玉	参	共	5	平井卓也議員	比例四国	衆	自
玉木雄一郎議員	香川	参	国	6	岬まき議員	比例東海	衆	維
古川元久議員	愛知	衆	国	7	野田国義議員	福岡	参	立
高木真理議員	埼玉	参	立	8	青山周平議員	比例東海	衆	自
☆ 山口晋議員	埼玉	衆	自	9	穀田恵二議員	比例近畿	衆	共
☆ 梅谷守議員	新潟	衆	立	10	三上えり議員	広島	参	無
福島みずほ議員	比例	参	社	11	柴山昌彦議員	埼玉	衆	自
大島九州男議員	比例	参	れ	12	安江伸夫議員	愛知	参	公
仁比聡平議員	比例	参	共	13	大塚耕平議員	愛知	参	国
☆ 牧義夫議員	比例東海	衆	立	14	大野敬太郎議員	香川	衆	自
○ 船後靖彦議員	比例	参	れ	15	小川淳也議員	香川	衆	立
○ 吉良よし子議員	東京	参	共	16	太田房江議員	大阪	参	自
☆ 宮本岳志議員	比例近畿	衆	共	17	石井拓議員	比例東海	衆	自
舟山康江議員	山形	参	国	18	堂込麻紀子議員	茨城	参	無
本村伸子議員	比例東海	衆	共	19	斎藤嘉隆議員	愛知	参	立
田中和徳議員	神奈川	衆	自	20	志位和夫議員	比例南関東	衆	共
高橋千鶴子議員	比例東北	衆	共	21	菊田真紀子議員	新潟	衆	立
小宮山泰子議員	比例北関東	衆	立	22	根本幸典議員	愛知	衆	自
瀬戸隆一議員	比例四国	衆	自	23	磯崎仁彦議員	香川	参	自
				24	三宅伸吾議員	香川	参	自
				25	井上哲士議員	比例	参	共
				26	田島麻衣子議員	愛知	参	立
				27	田名部匡代議員	青森	参	立
				28	宮口治子議員	広島	参	立
				29	浅野哲議員	茨城	衆	国
				30	金子恭之議員	熊本	衆	自
				31	三浦のぶひろ議員	神奈川	参	公
				32	伊藤孝忠議員	愛知	参	国
				33	阿部弘樹議員	比例九州	衆	維
				34	石川昭政議員	茨城	衆	自
				35	吉川元議員	比例九州	衆	立
				36	田村貴昭議員	比例九州	衆	共
				37	山下芳生議員	比例	参	共
				38	吉田宜弘議員	比例九州	衆	公
				39	森山浩行議員	比例近畿	衆	立
				40	佐藤公治議員	広島	衆	立
				41	津島淳議員	比例東北	衆	自
				42	城井崇議員	福岡	衆	立
				43	泉健太議員	京都	衆	立
				44	赤嶺政賢議員	沖縄	衆	共
				45	近藤昭一議員	愛知	衆	立
				46	大西健介議員	愛知	衆	立
				47	古賀ゆきひと議員	福岡	参	立
				48	滝沢求議員	青森	参	自
				49	笠ひろみ議員	神奈川	衆	立
				50	芳賀道也議員	山形	参	無
				51	三ツ林裕巳議員	埼玉	衆	自
				52	青山大人議員	比例北関東	衆	立
				53	神谷裕議員	比例北海道	衆	立
				54	田村智子議員	比例	参	共
				55	里見隆治議員	愛知	参	公
				56	高島修一議員	比例北信越	衆	自
				57				

	本	代	計
自由民主党	5	17	22
立憲民主党	4	20	24
国民民主党	3	3	6
公明党	0	4	4
日本共産党	8	7	15
日本維新の会	0	2	2
社会民主党	1	0	1
れいわ新選組	2	0	2
無	0	3	3
計	23	56	79

参加政党 7

	本	代	計
衆	13	35	48
参	10	21	31
計	23	56	79

☆ …衆議院文部科学委員 11人
○ …参議院文教科学委員 5人

(以下、あいさつ要旨)

「子どもは1人は公立、1人は私学で、学費負担の差を実感したが、私学に通わせてよかったと思っている。この問題は与野党の垣根を超えてとりこんでいく必要がある。地方交付税の増額も求めていくとよい」(木村議員)、「私自身は父子家庭で父が他界し、兄が働いてくれた。学びたいのに経済的理由で学べないのは間違い。必要な助成を拡充して、誰もが学べるようにしていきましょう」(紙議員)、「異次元の少子化対策というが、一番はやはり教育の無償化をすすめること」(倉林議員)、「大宮駅前でシール投票をやったら、屈強な男子高校生が声をかけてきた。『電気代が上がり、寮費が上がる。親にこれ以上迷惑をかけたくない。軍事費よりもまず教育の無償化です』と言っていた」(伊藤議員)、「わが党は人づくりは国づくり、教育無償化を、をスローガンとしてとりこんでいる。経済的な心配なく学べる場をつくるべきだ」(古川議員)、「3人子どもがいて、下は双子で公立と市立。どちらもPCの購入が必須だが、15万円と14万円かかる。私学助成以上のさらなる助成が必要だ」(高木議員)、「どこの地域、どこの家に生まれても、学びたい場所で学ぶことが必要だ。養護教諭などの教育条件の拡充も必要。子供を通わせていたので私学の良さは理解しているが、高い学費が障壁。ここを変えていかなければならない」(福島議員)、「広島で4割が無償化の対象ではないのはおかしい。世界は『教育は無償』。お金を払わなくてはいけないというほうがおかしい」(仁比議員)、「相山女学園の生徒たちをいつも見ている。10数年間文部科学委員を務めてきた。愛知は年収720万円未満まで無償。自治体間格差を考えると、一番恵まれた自治体に合わせた国の施策が必要だ」(牧議員)、「希望する子が学べるように大学まで無償化するのが党の方針。年間4兆円を投じる。高校進学率98%なのだから、就学支援金の拡充で無償にすべきだ。35人学級が私学でも実現し、専任の専科教員を私立小でも配置できるようにする」(船後議員)、「みなさんの声が少しずつ私学助成を動かしているが、その声に応えきれていない。3年前に要請に来られた高校生が、学費のためのアルバイトで学校生活の時間が取れず、希望が持てないと泣いていた。こんなことはあってはいけない」(吉良議員)、「ほとんどの党がこの集会に参加され、全政党が紹介議員になっているのに、この国会でも請願が採択されなかった。自民党は『増額』を『充実』してもらえれば」と述べていた(宮本議員)、「何年も前からこの運動が続けられたことでここまでできた。山形は良いほうだが、山形の拡充も全国の声があったから圧力となって、ここまでできた」(舟山議員)、「小中高生の自殺が514人と最悪の数を記録した。子どもを追い詰めているものを取り除く必要がある。軍事費は世界第3位、教育予算は先進国最低というこの国の政治を変えることが必要」(本村議員)、「再犯者の6割が中卒か高校中退。教育を受けられるかどうかの違いが出る。多様な教育が求められる時代に格差をなくすことが必要」(田中議員)、「みなさんの運動が経済的理由による中退を減らしてきたことに確信をもってください。こども家庭庁ができて、『異次元の少子化対策』が提示されたが、トップのスウェーデンに並ぶと言っている予算は就学前児童のみ」(高橋議員)、「みなさんの活動がここまでの成果を生んでいるが、まだまだ。無償化するまで続けることが必要」(小宮山議員)